



かがやく瞳

令和4年度

2023. 2. 3

No. 36

スキー学習にご協力ありがとうございました

昨日の全校スキー教室でスキー学習が終わりました。スキー学習では道具を揃えたり運搬したりなどたくさんのご負担をおかけいたしました。また、多くの方々にボランティアとしてご協力いただきました。これまでたくさんのご協力ありがとうございました。

スキー学習での子どもたちの様子には、スキー学習の意義を感じさせられる場面が多くありました。例えば1年生、ウェアを着ることから始まって坂を登って滑るまで1週間が過ぎました。何度も「上手くいかない。→できるようになった。」をくり返しました。上滑りしながらなんとか坂に登り初めて滑った時、坂の下で転んで起き上がった時の笑顔は、とても印象的でした。たくましい瞳の輝きが見られました。ファミリースキー場の上から滑れなかった子が、滑れるようになっていったこともありました。たくさん「できない」が「できた」に変わる場面、そして、笑顔を見ることができました。お陰様で、全校スキー教室では、1年生から6年生まで全員がリフトに乗って滑り終えることができました。スキー学習を通して味わった「できた」という実感が、踏ん張る力になっていくことでしょう。新しい春に向かう力を養うことができました。 【1年生 まずスキーをはくお勉強から】



スキーの持ち帰りや返却にもご難儀をおかけいたします。どうぞ、よろしく願いたします。

特別支援教育研修を行いました ～みんなに優しい教育を目指して～

1月31日に国際教養大学の橋本洋輔先生をお招きして、『『読み』『書き』の支援』をテーマに研修会を行いました。研修は、読み書きに困難さをもつ人の体験からスタートしました。先生が示す文章のイ段の文字を数字に変換しながらメモする活動でした。例えば、い=1、き=2、し=3、ち=4・・・という暗号を使って、「たいやき」を「た1や2」などと変換しながらメモを取りました。途中で全くできなくなり、イライラしてあきらめてしまいました。書字に困難を抱える子の辛さがよくわかりました。書字に困難を抱える子は6%程度いるそうです。そのことを前提として、概要をまとめたレジュメや穴埋めシートなどを用意して支援する考え方や方法を学びました。

橋本先生は研修の最後に『『できない子が一番辛い。そして、その辛さを助けてあげられないのも辛い。』そんな相互障害の状況を解決したいですね。』と話されました。子どもが「助かった」そして、先生が「助かって（できるようになって）よかった。」とお互いが越えられる状況を創る工夫が支援なのだと思います。本校では「特別支援教育」を、特別なことではないと考えています。「困難を抱える子どもをターゲットに工夫したことは、他の子どもにも有効な『みんなに優しい教育』を行う考え方・工夫である。」と捉えています。PTAの授業の中にもその考えが活かされています。その視点から見ただけだと有り難いです。橋本先生が各教室の授業を一巡した際の「この学校の先生方は特別支援教育の考え方を活かした授業していますね。だから、子どもたちが落ち着いています。」という言葉に嬉しくなりました。



【疑似体験 イライラウルウルを体験】

～今日は節分 家庭で行う節目の行事の大切さ、子育てが終わって思うようになりました。～